

ドキュメンタリーが面白い！

テレビ局はなぜ映画を作るのか 道内民放3局の制作者が語る

道内民放3局が制作したドキュメンタリー映画が、昨年から今年にかけて相次いで公開されました。HBC 北海道放送の「ヤジと民主主義」、UHB 北海道文化放送の「新根室プロレス物語」、HTB 北海道テレビ放送の「奇跡の子 夢野に舞う」。いずれもテレビドキュメンタリーとして放送した作品を映画化し、高い評価と人気を得ました。日ごろライバル関係にある3作品の制作者が、放送局の垣根を越えてドキュメンタリーの面白さや映画化の難しさ、その意義と可能性などを語り合います。最初に3作品の予告編を上映します。

5月26日(日)午後 5時30分～ 午後5時15分開場、8時終了予定

かでのる2・7 8階 820 研修室 (札幌市中央区北2西7)

■登壇者 (作品公開順)

■進行役 UHB・吉岡史幸さん



「ヤジと民主主義 劇場拡大版」監督 山崎裕侍さん

HBC 報道部デスク。主な作品に「命をつなぐ～臓器移植法施行から10年・救急医療の現場から～」 「赤ひげよ、さらば」 「クマと民主主義」 「ネアンデルタール人は核の夢を見るか」 「性別は誰が決めるか～『心の生』をみつめて～」 「閉じ込められた女性たち～孤立出産とグレーゾーン～」 など。民間放送連盟賞、ギャラクシー賞、文化庁芸術祭賞、放送文化基金賞、文化庁芸術選奨など受賞。



「新根室プロレス物語」プロデューサー 吉岡史幸さん

UHB 取締役・株式会社オーテック社長。主な作品に「平成開拓民」 「誰が命を救うのか～揺れる医師法17条」 「浅草レッサーパンダ事件の深層」 「石炭奇想曲」 「ニュースの現場」 「バックレコードを越えて」 「聴覚障害偽装事件」 「17歳の先生」 など。民間放送連盟賞、ギャラクシー賞、放送文化基金賞、地方の時代映像祭、FNSドキュメンタリー大賞など受賞。



「奇跡の子 夢野に舞う」監督 沼田博光さん

HTB 報道部デスク。主な作品に「カムイの鳥の軌跡」 「聞こえない声～アイヌ遺骨問題 もう一つの150年」 「アイヌの誇り胸に～受け継がれしエカシの言葉～」 「たづ鳴きの里」 など。科学放送高柳賞最優秀賞、科学技術映像祭内閣総理大臣賞、ギャラクシー賞、NY フェスティバルド・ドキュメンタリー部門優秀賞、独ワールドメディアフェスティバル・ドキュメンタリー部門銀賞など受賞。

参加費 **500円** (事前申し込み不要)



主催 日本ジャーナリスト会議 (JCJ) 北海道支部
問い合わせ先 hcj.hkd2022@gmail.com (JCJ 北海道支部)、070-4798-5066 (岩井)